

## 新しい時代のリーダーにふさわしい気高い若サムライ、やーい！

いまどきの「サムライ」はワールドカップサッカー日本代表の「サムライブルー2006」を思い起こさせるが心残りながらその話ではない。最近ではリーダーの風格が見られる人に巡り会う機会が少なくなった。楽天的である私にも多少気になるリーダーへの期待を語ってみたい。社会を主導する政治、それを担う日本の政治家は残念ながら世界の中では一流ではないらしい。どうしても見劣りする。また、一流といわれた日本経済は失われた十年からやっと立ち直りつつあるものの社会全体に気配りする余裕がなく巷に経済格差を生みだし、景気回復の合唱が他人事に聞こえる。さらに、聞き慣れた少子高齢化は社会に大きな衝撃を与え、社会保障全体の抜本的変革を余儀なくしている。まだまだ明るい将来が見通せない。

このような時勢には、不安の背景を見事に分析し、めざすべき明るい将来像および具体策を示し、確実に実現してくれる強いリーダーの登場が待たれる。トーンが落ちるが、順送りか不本意にリーダーに推された人であっても多少の差はあれ同じ期待が寄せられる。リーダーは計画の実行はもちろん、途中経過での成果を検証し、順調な部分と問題箇所を明確に呈示し、後者に対しては解決型の新たな提言をしなければならない。その意味で、先人には私の知る限りでも見習うべきリーダーが多い。例えば、臨床家の敬意を集めた故沖中重雄東京大学教授は最終講義で自らの診療を分析して誤診率を取り上げたと伝え聞く。なかなか真似出来ることではない。

対照的に、誇り高き責務を忘れて既得権益にすがり、取り巻き連中とギルドを作ってボスにおさまり、肝心の成果は後世が評価すると称して逃げる輩もいる。群がる連中も何がしかのおこぼれが欲しく不本意な同調をするが、リーダーが一旦不祥事を起こすと我先に雲散霧消する。このようなサロンからは後世に誇れる成果は生まれまい。公害問題等でたびたび指摘される御用学者の類はその悪しき例かもしれない。

リーダーは孤独といわれる。群れずに孤独に耐えてこそリーダーといえよう。このように見えてくると、周辺に気配りする世間慣れした賢い人よりも、妙なしがらみがなく周辺に惑わされない若い世捨て人風がリーダーには相応しいのかもしれない。自らの権益を捨てリーダーという立場に見合う社会奉仕という気高い精神が似合う。まさしく忘れられつつある日本古来の武士道の精神に通じているようにも思える。これからの医学教育においては、従来にも増して、義を重んじるリーダー学、人権と倫理、教育学、最低限の医療経営学を重視してほしいものである。いつの日か、リーダーに相応しい、気高い若サムライが現れるのを楽しみにしている。

中熊秀喜